

⑦ 大道具・小道具をいろいろな素材で制作中



⑧⑨ テレビのスタジオのように
セットし、デジカメで撮影する



写真作品の完成



成果

北斎漫画の模写から始まり、それを彩色したり、場面を考えたり、作品の見せ方を考えたりと、表現活動を行うことで、生徒たちは伝統文化である浮世絵を「体験」する。遊び心をもって浮世絵を学べる「体験型の鑑賞」と言えるのではないだろうか。

また共同制作をすることで、一人では作れないようなスケールの大きな舞台をつくり、より迫力のある写真を撮った生徒もいる。オープンな題材であるので、生徒によって表現の多様性が見られることが面白い。最終的には教師が加工を施し、鑑賞会で上映した。歌舞伎の音楽などにあわせて上映するとなかなかおもしろい雰囲気が出て、生徒たちも見入っていた。

課題

- ①撮影した写真をプリントアウトするという前提の課題であったが、撮影にじっくり思考錯誤させる時間がとれなかった。光源やぼかしなど、見せ方までこだわって撮影させるには、写真についての学習も必要になると感じた。
- ②共同制作する場合、意欲の低い者同士が集まると、学習効果が上がらなかった。グループの組み方も考慮する必要があった。
- ③撮影した写真が手元に残るが、立体に展示した作品は撮影後解体するため、家で飾ることができない。その問題点を活かして、今年度は個人制作で、決められたサイズのベニヤ板の上で3D浮世絵アートをつくるという課題に取り組んでいる。個人の世界観が凝縮されたボックスアートのような作品を期待している。

生徒の感想より

西洋はすごく厳密に物・人を再現しようとしているが、浮世絵は再現というより“イメージ”の方が強く、こだわったところや強調して表したい部分を自分のイメージ通り大きめに描いていくところが分かった。

日本の伝統美術というと、現代の美術とはなかなか結びつきにくい、堅く頑固なイメージがあったが、それを“アート”として現代の美術に取り入れることによってすごくイメージが変わったし、親しみやすくなったように感じた。

この感想文を書いた生徒の作品。今年度はコンパクトでかわいい作品ができています→

